

地域素材を生かし、デジタルペンやタブレット端末を活用した協働学習に関する研究

～新美南吉のコンテンツ制作から案内人になるまでの活動を通して～

半田市立岩滑小学校

〒475-0962
愛知県半田市岩滑高山町5-55

<http://www.yanabe-e.ed.jp>

1 はじめに

本校は、「ごんぎつね」の作者・新美南吉のふる里である岩滑（やなべ）地区にある。また、新美南吉の出身校でもあり、代用教員として勤務したこともある学校である。校区には「ごんぎつね」をはじめ、新美南吉の作品の舞台となった場所や物が数多くある。さらに、新美南吉記念館も学校の近くにある。

そこで、小学校6年生の国語の時間・総合的な学習の時間を使って、新美南吉のゆかりの場所や物語の舞台となったところを調査・取材してデジタルコンテンツとしてまとめる活動をさせたいと考えた。

これらの活動を通して、自分たちの身近な地域素材の価値を再確認させたい。

また、計画立案能力の育成とその提示の仕方、地域にある素材の調査・取材の仕方、地域の人たちとのコミュニケーションの取り方、新美南吉記念館との協力体制の取り方、デジタルコンテンツとしてのまとめ方、自分の考えやまとめたものの提案の仕方、わかりやすく人に伝える方法や話し方などを身に付けさせたい。さらに、自分たちでもできる地域や社会への貢献や地域との絆についても考えさせたい。

2 研究の目的と手立て

総合的な学習の時間においては、内容の取扱いについての配慮事項として「問題の解決や探求活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」を指導するように明示されている。そこで、本研究においては、少人数のグループに分かれ、現地での調査や調べ学習をもとに、さまざまな場面で話し合うことを重点的に行う。また、多くの情報を得るために、学校外の方々の協力を得ていく。

(1) お互いが深め合い、高め合える活動を効果的に展開するために

地域素材である新美南吉の世界をまとめていく過程での話し合い活動においては、デジタルペンやタブレット端末を活用する。デジタルペンは紙にボールペンで書くだけでその内容をデジタルで記録・共有でき、時間軸で再現も可能である。児童たちはお互いに話し合いながら思いや思考を抵抗なく紙に表現していき考えをまとめて共有することができる。それらを一元で管理できるシステムを導入する。

(2) 社会貢献する実践力を養うために

新美南吉記念館の協力を得てこの実践・研究を進めていく。自分たちの地域に誇りを持ち、社会貢献する楽しさを体験させる。最後には、子どもたち自身が自分たちの作ったデジタルコンテンツをも

とにして、新美南吉記念館を訪れるお客さんに対して館内をボランティアとして案内したり、南吉ゆかりの地を訪れる観光客に案内ボランティアとして活動したりする「新美南吉案内人」を目指す。

3 研究の実践 6年生、国語科・総合 「新美南吉の案内人になろう」の実践

(1) 目標

- ①岩滑にある南吉ゆかりのものや場所に関心をもち、より詳しく調べたいという意欲をもって調べようとする。
- ②個人やグループで課題を見つけて調べ、それらを人にわかりやすく伝えるためにまとめるとともに、ICT機器を活用してそれらを効果的に伝えることができる。
- ③調査・取材活動を通して、地域への愛着と誇りをもつとともに、友達と協働することや地域の人々と触れ合うことの楽しさを知る。

(2) 学習活動の計画

- | | | |
|-----|-----------|----------------------------------|
| 第1次 | 第1時 | 南吉作品を知り、南吉作品に関心をもつ。 |
| | 第2時 | 安城市立桜町小学校と第1回TV会議で学校紹介をする。 |
| | 第3時～第5時 | 南吉作品を読み、内容や感想を書く。 |
| | 第6時～第10時 | 南吉ゆかりの地を探検する。(地域の人との協力) |
| | 第11時～第12時 | 新美南吉記念館を取材する。 |
| | 第13時 | 安城市立桜町小学校と第2回TV会議で南吉学習の紹介をする。 |
| 第2次 | 第14時～第15時 | 自分の詳しく調べるテーマを決め、グループを作る。 |
| | 第16時～第18時 | テーマ別に追加の取材・調査をする。 |
| | 第19時～第20時 | 取材・調査してきたことをまとめる。 |
| | 第21時 | 南吉のふるさととして案内する場所別に各自でキャッチコピーを作る。 |
| | 第22時 | 岩滑・新美南吉のポスターを作るために必要な資料を整理する。 |
| | 第23時 | 岩滑・新美南吉のポスターを作る。 |
| | 第24時～第26時 | まとめたことをwebページにする。 |
| 第3次 | 第27時～第28時 | 案内人として発表する練習をする。 |
| | 第29時～第30時 | 他グループの発表を聞いて自分たちと比べる。 |
| | 第31時 | ボランティア案内人としての心構えと活動日程を確認する。 |
| | 第32時 | 安城市立桜町小学校と第3回TV会議で南吉バーチャル案内をする。 |
| | 第33時 | 今までの活動を振り返り、反省をする。 |

(3) 活動内容

① 新美南吉ゆかりの地を取材・調査する。

岩滑小学校の先輩でもある新美南吉について調べる活動を展開した。ここでは、新美南吉に関する書籍や校内に残された資料を活用するだけでなく、地域に飛び出して取材活動を展開した。取材先は南吉作品の舞台となったお寺や神社など新美南吉ゆかりの場所である。また、新美南吉について詳しい地域の人たちや新美南吉記念館なども取材した。新美南吉記念館では、館長さんから新美南吉の生涯などについて資料をもとに詳しく説明していただいた。

調査・取材活動においては、後にデジタルコンテンツを作成することを意識させて、メモの他にデジタルカメラ、デジタルビデオ、タブレット端末などを活用させた。

児童たちにとっては身近なところであったが、知らなかった事実やその場所と南吉作品とのつながりなどを知ることができた。



新美南吉の生家を取材する



地域の人から取材する



南吉作品の舞台を取材する



新美南吉記念館を取材する

② 調査・取材した内容をまとめる

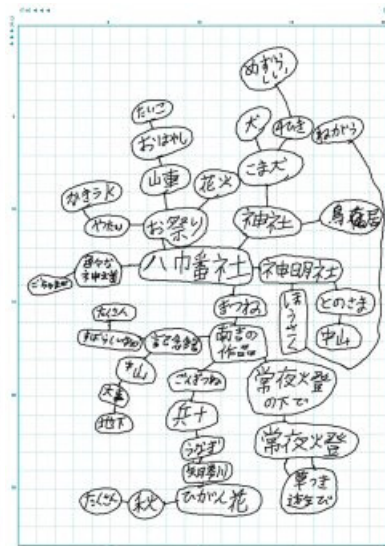
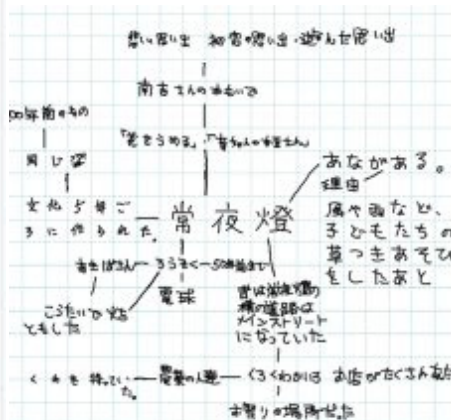
自分が新美南吉の案内人になるイメージを持って、何を案内したいかテーマを決めていった。その過程において、デジタルペンを活用してマインドマップを書いていき、グループ内で学級内で発表してイメージを固めていった。また、テーマが似ているもの同士がグループになり、調査・取材してきたものをまとめていく計画を立てていった。

できたあがったグループは案内場所ごとに以下の7グループである。

八幡社、南吉生家、常夜灯、赤い井戸・はなれの家、常福院、光蓮寺、新美南吉記念館

資料をまとめていく過程には、グループ内でデジカメ画像やタブレット端末、デジタルペンなどを利用して自分の考えや思いが表れているかを児童自身がお互いに確認していった。

さらに、自分が一番伝えたいことを明確にしていき、友達の見解やアドバイスをもらいながら、次のポスター作り、キャッチコピー作り、web ページ作りへと進めていくことができた。



取材・調査後にデジタルペンで書いたマインドマップの一部



自分の考えや思いを確認する



友達の思いや考えを確認する

・岩滑・新美南吉のポスターを作る

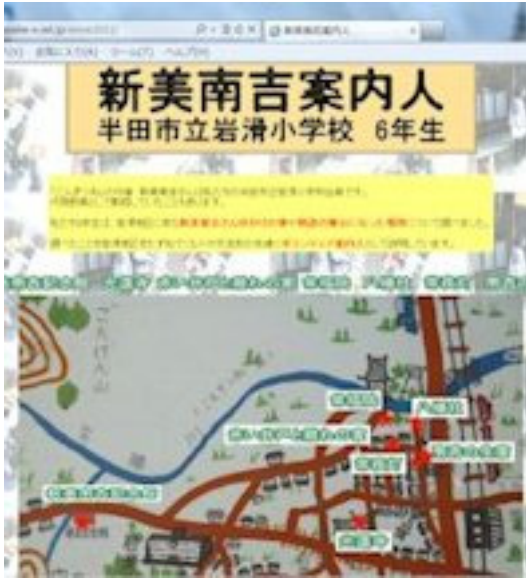
グループ内で自分たちの考えや思いをもとにキャッチコピーを考えた。そのキャッチコピーの決定過程では、メンバー全員が資料をもとに自分の思いを発表することができた。そして、みんなの考えや思いが入ったキャッチコピー、ポスターができあがってきた。各グループのポスターは大判プリンターで印刷した。さらに、新美南吉記念館や交流校に送った。



南吉の生家グループのポスター

・web ページにまとめる

新美南吉のゆかりの地ごとのグループでまとめたことをweb ページにした。ここまでの活動でグループ内ではメンバーの考えや思いが共有されていたのでスムーズに作業を進めることができた。



クリックابلマップ



光蓮寺グループのページ

③ 交流校とのTV会議交流 バーチャル案内

安城市立桜町小学校の6年生とTV会議システムを活用した南吉交流を行った。

第1回目は、お互いの学校紹介と自己紹介を行い、これからの交流の期待を持った。

第2回目は、お互いの南吉学習についての発表を行った。

第3回目は、岩滑小学校から南吉ゆかりの岩滑地区をバーチャル案内した。これは、今までの活動をまとめた物である。南吉ゆかりの場所をデジタルでまとめた物や案内地図、それぞれの場所のポスターとキャッチコピーである。これにより、興味を持った桜町小学校の児童が実際に岩滑を訪れることになった。



第2回TV会議交流の様子



第3回TV会議交流の様子 バーチャル案内

④ ボランティア案内人になる

桜町小学校の子どもたちとご家族が岩滑地区を訪れた。その時、自分たちのまとめた物をもとにタブレット端末を活用して自分の担当していた場所を案内することができた。

準備段階では、案内する場所ごとにグループで綿密に計画している姿を見ることができた。

また、当日は岩滑を訪れて案内を受けた人みんなに喜んでもらうことができた。



生家を案内するグループ



南吉記念館を案内するグループ

4 成果と今後の課題

- ・デジタルペンや iPad などを協働学習に活用することにより，自分の考えや友達のことを伝えやすくなった。グループの中で自分の考えや思いを人に伝えようとするときにその根拠となる条件を強調して示しながら説明することができたので，説得力のある説明をすることができた。
 - ・取材・調査をしてまとめていく過程において，常にグループ内や全体での発表を視野に入れてまとめていこうとする姿勢が見られるようになってきた。
 - ・自分の考えをまとめたり，思考の過程を明らかにしたり，それを人に説明する場面ではデジタルペンは有効なツールになった。また，自分の思いや効果的な説明を行う場合はタブレット端末での資料を提示しながらの発表が有効であった。この2つを組み合わせることでより効果的に話し合いを展開していくことができた。
 - ・最終目標を「新美南吉の案内人になろう」とすることにして，自分たちの身近な地域素材をデジタル化して扱うことにより，下位児童に対しても興味を持って最後まで活動しようとする意欲を持たせることができた。
 - ・自分たちにしかできないボランティア案内人となり，人に喜んでもらえる喜びを体験することができた。
 - ・岩滑地区の取材・調査活動，それらをまとめて発表する活動において，自分たちの岩滑地区をより詳しく知ることができた。また，南吉の作品や南吉の気持ちをより理解することができた。
- これらの活動をグループで活動してきたが，グループ内では協力してよりよいものを作っていこうとする意識が高まっていった。今後は，さらにグループ内の高め合い、深め合いに有効な ICT 機器の組み合わせをいろいろと試していきたいと思う。